

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-		
		商店街（代表者）	・8月末から10月末のハロウィーンにかけて、商店街の特色を活かしたイベントを行うため、やや良くなる。今の商売を考えると、仕掛けのない販売は通用しなくなっている。		
		商店街（代表者）	・消費者の購買意欲が高まりつつあり、今まで我慢していた消費が動き始めているため、一般的に上向いてくる。		
		一般小売店〔鮮魚〕 （営業担当）	・猛暑のピークが過ぎれば客足も戻ってくる。		
		一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・来客数の増加によって、業況は良くなる。		
		一般小売店〔酒〕（店員）	・今夏の売上は緩やかに上向いており、来月も今月以上となる見込みである。ただし、売れているのは高額商品ではなく、比較的求めやすい価格の商品となっている。		
		百貨店（売場主任）	・あと2～3か月で入口などの整備が進むため、更に良くなる。		
		スーパー（店長）	・参議院選挙の結果もあり、政治の先行き不透明感は依然として残っているものの、猛暑で一部の季節商品が売れるため、売上全体が押し上げられる。		
		スーパー（社員）	・売上が前年比で増えている店舗数は月ごとに増えている。競合店との競争は激しいが、イベントや販促がうまく客の購買につながり始めた実感があるため、先行きはやや良くなる。		
		スーパー（企画）	・景気の悪化が始まってから丸1年が経過し、消費税率が引き上げられなければ、ようやく底入れしそうな感がある。小売業界は気温に左右される部分が大きいため、このまま異常気象にならなければ、回復傾向が徐々に強まってくる。		
		コンビニ（店長）	・今年の気候を考えれば、売上は例年よりもかなり増加するため、前年の水準もクリアできる。		
		衣料品専門店（販売担当）	・普段よりも秋冬物に関する話をしている客が多いため、先行きはやや良くなる。		
		高級レストラン（支配人）	・7月上旬から販売量は順調に伸びていたが、中旬からの天候不順で、販売量、来客数共に大きく落ち込んでいる。その後、天候の回復と、夏休みに入ったことで徐々に回復しつつあるため、先行きはやや良くなる。		
		観光型ホテル（経営者）	・しばらくは好調が続くものの、平城遷都1300年祭が11月で終了するため、それ以降の落ち込みが懸念される。		
		観光型ホテル（経営者）	・猛暑の影響で来客数が少なかったほか、売上の大部分を占める婚礼件数が少なく、思ったほど売上が伸びていない。今後2、3か月は7月よりも予約件数が多いため、やや良くなるものの、消費税率の引上げ問題などもあり、まだまだ先行きは不透明である。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・客単価は低水準であるが、販売量は増加している。依然として土日は稼働率が低いものの、徐々に観光客も増えてきている。		
		通信会社（社員）	・地上デジタル放送対応がまだ済んでいない客が徐々に動き始めており、先行きはやや良くなる。		
		住宅販売会社（経営者）	・不動産の供給過多の状況が徐々に改善しているため、先行きはやや良くなる。		
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・客足はかなり回復してきたが、買上げは単価の低い商品が中心であるため、売上が前年の水準を超えるのは困難である。
				一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・秋口の客の動きについては、来客数は横ばい、客単価は低下傾向が続くなど、今月に似た動きとなる。
一般小売店〔精肉〕 （管理担当）	・夏休みに入り、お盆前後には消費が一部で盛り上がるものの、それ以外の日は今まで以上に動きが悪くなる。消費のメリハリが極端になってくるため、ここから3か月の動きは浮き沈みの激しいものとなる。				
一般小売店〔菓子〕 （営業担当）	・景気の上昇にはまだまだ期待できない。当社の商品はぜい沢品やし好品に当たるため、消費者の買い控えは今後も続くことになる。				
一般小売店〔カメラ〕 （販売担当）	・夏休みに入って少しはレジャーが活気付いており、販売量もそれなりに増加しているため、今後これ以上落ち込むことはない。				

百貨店（売場主任）	・不安定な政局や低調な株価など、先行きは楽観視できない。小売業界では売上が伸びないなか、新規出店の増加や店舗面積の拡大で競争が激化し、経営環境は厳しさを増している。日本人の消費が伸びないなかで、外国人観光客の免税手続きは前年比で60%増えるなど、大幅に増加している。今後は特に、中国人観光客の消費が増える。
百貨店（売場主任）	・客はここ数年、ファッションに関する消費をかなり抑える傾向にある。その反動で一部の高額品は好調な動きとなっているが、全体的には厳しい状況が続いている。今後、ファッション関連の需要については、景気がかなり良くならなければ回復することはない。
百貨店（営業担当）	・夏物バーゲンによる効果もなく、客の買物は今後も慎重な動きが続く。
百貨店（売場担当）	・今年も9月中旬から10月にかけて厳しい残暑が予想されているほか、特に消費意欲を刺激する要因も見当たらない。気温が平年並みにならないければ、客は本格的に動き出さないため、防寒衣料を中心とする冬物商品の動きも11月中旬以降となる。
百貨店（婦人服担当）	・3か月の長期予報によると、今年は厳しい残暑となるため、秋物衣料の売出しには良い材料が見当たらない。
百貨店（マネージャー）	・景気の下げ止まり感はあるものの、参議院選挙の結果としてねじれ国会となり、経済政策の決定もスムーズに進まないため、景気回復はなかなか進まない。
百貨店（サービス担当）	・天候不順であるが、電気製品などの季節商材が好調で売上は伸びている。ただし、今後は新商品や目立ったヒット商品がないほか、秋物商品の展開時期も年々難しくなっている。
スーパー（経営者）	・他店との競合により、チラシを入れるたびに単価の下がる動きが顕著であるため、今後も厳しい状況となる。
スーパー（経営者）	・相変わらず地方の雇用情勢は厳しく、家計の収入も減少傾向にあるため、消費の回復は困難である。
スーパー（経営者）	・今月は好調であったものの、天候による影響が非常に大きく、消費者の必要以上に買わないという傾向に変化はない。食料品の一品単価はまだまだ前年を下回っており、買上点数の増加でカバーしている状態である。株価上昇など環境の改善があれば良くなるものの、基本的には今のような状況が続く。
スーパー（店長）	・今夏は猛暑関連の商品を中心に売行きが好調であるが、9月以降はプラスの要素が見当たらない。当店の客には年金受給者が多く、子ども手当の効果も薄い。
スーパー（店長）	・景気がやや悪いなか、小規模スーパーマーケットの新規オープンが続く。小さなパイの取り合いが続くため、来客数が伸びる可能性は低い。
スーパー（店長）	・少しは持ち直したものの、回復が更に進む要素は見当たらないため、短期間での回復は難しい。
スーパー（企画担当）	・経営環境や商圏の状況に変化はないため、今後も大きな動きはない。
スーパー（経理担当）	・消費の回復感はあるものの、猛暑の影響も否定できない。夏休みから初秋、食欲の秋にかけて回復が続けば、年末に向けて状況は良くなるが、現時点では不透明である。
スーパー（管理担当）	・猛暑の影響で一部に好調な商品もあるが、一時的な好調にとどまる。
スーパー（販売担当）	・雨の日は来客数が自然と減少するものの、最近始めた雨の日限定のサービスは利用が増えている。今後も全体的に大きく落ち込むことはない。
コンビニ（店長）	・たばこの売上はtaspo導入時には伸びたものの、その後は下がり続けている。今後、10月の値上げ前にはまとめ買いが起り、その後は反動減となるが、たばこの売上自体は意外に現状維持で推移すると楽観している。
家電量販店（経営者）	・消費者の景況感を押し上げる要素が見当たらない。政治、経済の先行きに安心感を持てるような政策が望まれる。
家電量販店（店長）	・エコポイント制度が12月で終了するという告知が少ない。終了月の12月は台数、金額ベースの需要が期待できるものの、8～11月は期待できない。テレビや冷蔵庫、エアコンの最近の動きをみると、第3四半期までの累計実績が前年を上回る様子もないため、マスメディアによる終了の周知が必要拡大につながる。
家電量販店（店員）	・購入の際に質よりも金額で決定する傾向に変化はない。まだまだ財布のひもは緩んでいないため、今後も厳しい状況となる。

乗用車販売店（経営者）	・現時点で好材料はないものの、同業社間の仕事が動き始めているため、今後は一般顧客の需要にも動きが出てくる。
乗用車販売店（経営者）	・良い材料が出てくるまでは景気に大きな変化もなく、消費は低調な動きが続く。
乗用車販売店（経営者）	・修理などの在庫台数があまり伸びていないほか、新車の購入や車検の予約も少ないため、今後も厳しい状況となる。
乗用車販売店（経営者）	・不安定な政治や悪い雇用情勢、物価の下落と、悪い材料がそろい過ぎている。
住関連専門店（店長）	・地上デジタル放送対策など、必要な消費が一段落するまでは趣味にお金を使う気にならないといった声が多い。まだまだ消費が活発になるまでには時間が掛かる。
住関連専門店（店員）	・売上の上昇につながるような景気対策が一切行われていないため、大きな変化はない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今年は暑さが一段と厳しく、残暑も長く続きそうである。当社では季節商品の取扱いが多いこともあり、夏物商材の動きは前年よりも良くなる。
その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候不順がなければ、今の状況から大きな変化はない。
その他専門店〔宝石〕（経営者）	・株価や政情が非常に不安定であるので、この状況が変わらない限り、今の景気が良くなる見通しは立たない。
その他専門店〔医薬品〕（店員）	・いまだに客の間では低価格志向が強く、チラシを打っても値引き商品しか売れないため、先行きの見通しは厳しい。
高級レストラン（スタッフ）	・近隣に競合店がオープンしたばかりで、その影響がどう出るかはまだ不透明である。
一般レストラン（スタッフ）	・3か月先に大きく変化する見込みもなく、現状維持が精一杯である。
一般レストラン（店員）	・大きな上向き材料が見当たらない。
その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・来客数や販売量に大きな変化はないため、今後も現在の状況が続く。
観光型ホテル（経営者）	・かなり思い切って宿泊単価を下げても、思ったほど予約数の増加につながらない。消費の冷え込みは今後もしばらく続く。
観光型旅館（経営者）	・特に目立った動きがないため、先行きに大きな変化はない。
観光型旅館（経営者）	・高速道路料金の無料化による影響が徐々に始めている。今後、レジャーや行楽の移動は負担の少ない方へ流れる。
観光型旅館（団体役員）	・最需要期であるにもかかわらず、客の動きは低調である。客単価も低迷しているほか、当地は高速道路料金の無料化路線からも外れているため、良くなる要素がない。
都市型ホテル（マネージャー）	・企業の宴会や、宿泊の予約状況に大きな変化はなく、個人客の動きにも勢いはみられない。特に、比較的安価なレストランに客足が戻ってこないことが、大きな懸念材料である。
旅行代理店（経営者）	・国内旅行の動きは少し戻ってきているが、不安定な株価は海外旅行にとってはマイナスである。円高の好影響はあるものの、社会全体で閉そく感が高まっているため、今後も厳しい状況となる。
旅行代理店（店長）	・旅行業界では需要の回復が進むような情報もないため、大幅に旅行需要が回復することはない。
タクシー運転手	・タクシーの利用は必要最小限に抑える傾向が定着しており、景気全体が上昇しない限りは今の状態が続く。
タクシー運転手	・まだまだ景気の先行きが良くなる見込みはない。タクシー業界では労働時間の抑制も進められており、状況としては厳しい。
タクシー運転手	・大手企業が残業ゼロ運動を始めるなど、夜勤者が減る傾向にあるため、今後も良くはならない。
タクシー会社（経営者）	・需要の増える見込みはなく、しばらくは悪い状態のまま横ばいが続く。
通信会社（経営者）	・秋までは大きなキャンペーンや新商品の投入といった予定がないため、市場は盛り上がり欠ける。
通信会社（店長）	・猛暑が刺激となってバーゲン商戦の売行きに好影響が出ているものの、安売りによる悪影響も今後徐々に出てくる。今後の景気はどちらに向かうか予測が立たない。
観光名所（経理担当）	・来場者数には一定の回復がみられ、今後も回復に向けた動きが続く。ただし、客1人当たりの売上については、前年だけでなく2年前の水準にも追い付かず、苦戦している。

	観光名所（経理担当）	・今月の梅雨は前年よりも雨が多かったほか、中旬以降は猛暑となったため、夏休みであるにもかかわらず来客数が伸びていない。例年は多くの予約客や飛び込み客が集まる、ガラス工芸などの体験教室も、今年は受講者数が少ない。もちろん物販の状況も芳しくなく、飲食店の売上も前年とあまり変わらない。売上全体ではほぼ前年並みであるものの、夏休み期間の割に出足が悪いことから、消費者の財布のひもは今後なかなか緩まない。
	遊園地（経営者）	・ほかの業種では業績が回復傾向にあるものの、各社で従業員の所得が増えるまでには今しばらく時間が掛かる。
	パチンコ店（店員）	・景気が良くなるような明るいニュースもないため、周囲の様子が変わることはない。
	競輪場（職員）	・近隣だけでなく、遠方の同業者からも良い情報が聞かれない。
	その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・高速道路料金の無料化で人の流れが変わっても、使われるお金が増えるとは考えられない。基本的には地域間の取り合いに終わり、市場全体として景気が良くなる要素は少ない。
	その他サービス〔コインランドリー〕（経営者）	・例年落ち込んでいく時期となるが、ポストイングなどの集客活動によって、来客数は維持することができる。
	その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・参議院選挙の結果、国会がねじれ状態となり、今後の景気対策への期待が持ちにくくなっている。それに伴い、消費者が景気の先行きへの警戒感を強めている。
	その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・値下げ競争が落ち着くまでは、苦戦する状況が続く。
	住宅販売会社（従業員）	・経済全体の上向き要素があまりにも少な過ぎる。
	住宅販売会社（従業員）	・各地域で一定数のマンション需要はあるものの、今後伸びることはない。地域ごとに適正な戸数は売れるが、供給過多地域では全く売れない。
	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・周囲では給料の据え置きや減給といった声が聞かれるなど、消費が増えることはないため、中小企業の経営は苦しくなる。今後の市況回復は金融機関の融資姿勢によって左右される。
	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・更なる住宅需要喚起策がない限り、足元でみられる需要の先取りによる押し上げも一巡する。
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・政治要因によって経済の停滞が続くなか、不動産市況についても消費マインドの上向き要素が見当たらない。円高が続くことで経済に変調をきたす不安も出てきている。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・大型スーパー同士の競争が激化しており、商店街への人通りがますます減少している。商店街では週休2日の店舗も増えつつあるため、人通りの減少は更に進む。
	一般小売店〔時計〕（経営者）	・若年層の来店回数が減ってきている。特に子育て世代の減少が大きいと、生活のなかでの優先順位が下がっている感が強い。先行きが不透明であるなど、全く安心できない状況となっている。
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今年の残暑は厳しいと報じられている。残暑が長引くと、冬物シーズンまでの期間が非常に厳しくなる。
	一般小売店〔花〕（店員）	・客の節約志向が強く、花をますます買わなくなっているため、売上アップは望めない。さらに、天候不良による原価の高騰もあり、利益が圧迫される。
	百貨店（企画担当）	・気候要因で回復の動きがみられるものの、残暑が残る予報も出ているため、秋物商品の売行きが懸念される。
	百貨店（営業担当）	・海外からの観光者の来店が更に増えるものの、直接的な売上の増加にはつながらない。一方、優良富裕客が海外からの観光客で混雑する売場を嫌い、来店をためらうようになっている。
	スーパー（店長）	・夏のボーナスが前年比で6.2%増となったものの、中小企業ではボーナスを支給しない企業が49%と多く、ボーナス商戦以降の売上の伸びは期待できない。家電でもエコポイント制度による効果が薄れ、薄型テレビやエアコンの動きが鈍化しつつある。扇風機は堅調な売行きとなっているものの、今後も単価の下落傾向が続く。
	スーパー（広報担当）	・今月の好調は梅雨明け後の猛暑によるものであり、一時的な動きにとどまる。先行きはまだまだ不透明感が強く、回復傾向が一時的には進まない。

	コンビニ（経営者）	・牛丼チェーンの値下げ戦争が更に激化することで、近隣の弁当屋も価格を下げてくるため、ますます客単価が低下する。	
	コンビニ（店員）	・たばこの値上げに伴って禁煙する人が増えているため、先行きの見通しは厳しい。最近では売上が1割程度減ってきている。	
	衣料品専門店（経営者）	・販売不振で売物がなくなってきている。メーカーも生産を抑えているため、今後良くなることは期待できない。	
	自動車備品販売店（営業担当）	・エコカー補助金が9月で終了した後、販売量の悪化することが目に見えている。	
	一般レストラン（スタッフ）	・高校授業料の無償化などの施策が継続困難となっており、今後は景気対策も特にならない。所得の増加する期待が持てないため、外食産業では低価格業態へのシフトが強まる。これによって一部の企業は伸びても、マーケットの縮小につながるため、先行きの見通しは厳しい。	
	スナック（経営者）	・周囲では若い人が経営する店も増えつつあるが、短期間で開店と閉店を繰り返している状況であり、見通しは依然として厳しい。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊では、月間千人を超える大口顧客の利用が、経費削減によって下半期から低価格ホテルへシフトする。先方の希望料金では収支が合わないため、引き止めを断念したが、穴埋め対策が進んでいない。ほかの顧客からも値下げ要請が強まりつつあるなど、先行きの見通しは厳しい。	
	都市型ホテル（営業担当）	・客室売上は稼働率の上昇で例年の水準まで戻りつつあるが、一般宴会の動きがここへきて止まっており、回復の兆しもみられない。キャンペーンなどの販促活動を強化しているが、消費者の動きそのものが止まっているため、先行きは深刻な状況となる。	
	旅行代理店（広報担当）	・9月末から10月末の動きは、現状よりも悪くなる。夏休みの旅行を申込んだ客からは、これ以降はしばらく旅行に行かないといった声が多い。9～10月は気候の良い季節であるにもかかわらず、旅行マインドは今よりも悪くなる。	
	タクシー運転手	・特に良くなる要素もなく、落ち込みが進む気配となっている。	
	競輪場（職員）	・前年の傾向に比べると悪くなっている。景気が急回復して消費者の購買意欲が上昇するような要素も見当たらない。	
	その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・8月はプロ野球の試合やコンサートが開催されるため、多数の来場者を見込んでいるが、10月は野球もシーズンオフとなるため苦戦する。	
	住宅販売会社（経営者）	・顧客数が減っているほか、1棟当たりの予算も減少している。さらに、複数の住宅会社で値引き競争を行うため、性能や仕様の良い住宅を提供したくても、価格だけで判断されて負けてしまう。米国の大手金融機関の破たん以降、受注のひどい失敗が続いているため、先行きの見通しは非常に厳しい。景気は回復傾向と報じられているが、底なし沼に陥って抜けられない感がある。	
	住宅販売会社（総務担当）	・同業他社との値引き競争が続くなか、体力のある間には良いが、徐々に厳しくなっているため、先行きの見通しは厳しい。	
悪くなる	一般小売店 [貴金属製品]（従業員）	・政治の迷走で株価も低迷するため、売りに悪影響が出る。	
	一般小売店 [花]（店長）	・先行きの不透明感はますます高まるほか、政治に対する不安も増す一方となる。	
	一般小売店 [雑貨]（店長）	・10月にたばこ税が引き上げられると、売上が更に落ち込む。	
	コンビニ（経営者）	・近隣に競合店が開店する予定であり、売上に悪影響が出る。	
	乗用車販売店（経営者）	・政府による補助制度が期限を迎えるため、先行きは悪くなる。	
	乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の期限まであと少しであり、それが終われば新車販売が一気に冷え込む。	
	乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の終了による反動減は免れない。	
	その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	・円高で海外旅行の価格が下がっているのに対し、宝飾品の価格は下がっていないため、今後も購入意欲は高まらない。	
	企業 動向 関連	良くなる	-
		やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）

出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・医療業界では文献のデータベース化の動きが出てきており、情報の新しい作成方法が求められている。今後、環境やエネルギー関連で変化が起これば、産業界も大きく変わる。	
一般機械器具製造業（経営者）	・当社の顧客には原子力関連の企業が多いため、ここ数か月の業況は良くなる。	
電気機械器具製造業（経営者）	・新興国における自動車の普及はこれからも進む。電気自動車や燃料電池自動車の開発も更に進むため、受注の好調な動きは今後も続く。	
電気機械器具製造業（営業担当）	・先の案件が増えているため、やや良くなる。	
建設業（経営者）	・急激に受注が増えることはないが、前年まで止まっていた案件を含め、動きが出てきている。	
金融業（支店長）	・取引先の建売業者では、住宅ローン減税の入居条件もあり、下半期には需要の増加が期待できる。現在は交通条件の良い宅地を探している状況である。	
経営コンサルタント	・特別な根拠はないが、しばらくは回復傾向が進む。	
経営コンサルタント	・顧客企業の業績、販売状況を見ると、今後はやや回復傾向に向かう。	
変わらない	家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・仕事量に変化がないため、今の状況が続く。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先からは良くなる情報が聞こえてこない。
	化学工業（経営者）	・月末の売上が非常に悪く、月初に少し取り戻すといった動きが続いている。取引先は仕入れをかなり慎重に行っており、先行きが良くなるとは考えていないことが分かる。
	化学工業（企画担当）	・全体としては回復傾向にあるものの、欧州の金融不安や円高の影響により、輸出関係の事業は先行きが不透明である。
	プラスチック製品製造業（経営者）	・様子見の状態が、いつの間にか普通の状況になりつつある。悪い状態でバランスが取れているため、現状打破には何らかの起爆剤が必要である。
	金属製品製造業（総務担当）	・夏場の学校関係の改修工事が一段落した後は、受注の見込案件がない。
	金属製品製造業（管理担当）	・大阪のコンクリート業者によるストライキにより、新築物件の工事が大幅に遅れている。ストライキが終わった後、遅れている工事が急ピッチで進められるため、一時的には忙しくなる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・年内は好調が続くものの、市場の悪い部分は悪いままか、更に悪くなることが懸念される。今後は良い部分と悪い部分の二極化が著しくなる。
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・エコポイント制度の終了に向け、一時的に需要が増える可能性もあるが、終了後の需要落ち込みも十分懸念されるため、景気回復につながるとは言い難い。
	電気機械器具製造業（企画担当）	・今後も年末までは大きな変化はない。LED照明の品不足で売り逃がしが出ているため、それが解決できれば少しは上向く。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・今後も状況は大きく変わらない。
	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・景気は上向いていると報じられているが、消費者に実感がないため、今後も厳しい状況に変化はない。
	建設業（経営者）	・高速道路料金の無料化実験による移動コストの低下で、他府県の同業者が参入しやすくなる。
	輸送業（営業所長）	・取引先の目は品質よりも料金に向けられており、コストダウンの話がほとんどであるため、今後も厳しい状況となる。
	輸送業（営業担当）	・衣料関係の荷物が前年の半分程度に減っている一方、電子部品工場からの出荷は倍近くに増えている。これはエコカー補助金の期限前の特需であるため、来月以降も好調が続くことはない。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・読者の入れ替わりはあるものの、購読数に大きな変化はない。購読を止める客も、他紙に奪われているのではなく、経済的な理由での休止が多い。
	広告代理店（営業担当）	・秋に向けての良い話は聞かれない。
	広告代理店（営業担当）	・今後、顧客企業が広告予算を増やす予定はなく、むしろ減らすという声が聞かれる。
	司法書士	・今月も事件数、案件数共に少なく、これから増加する要素もない。事件も単発的な物が中心で、継続性が期待できない。

		コピーサービス業（従業員）	・マンション管理や教育関連の企業は現状を商機ととらえ、活発な動きとなっているものの、それ以外の業界では外注費の圧縮が続く。製薬会社でもその動きは顕著で、主力医薬品が特許切れとなる2010年問題の影響も出てくる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・特に米国の大手金融機関の破たん以降、業況は悪くなる一方である。何の景気対策も施されていない現状を考えると、今後良くなることはない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・今後は設備投資の案件もないため、状況は大きく変わらない。
やや悪くなる		食料品製造業（従業員）	・これから秋に向けて食欲の高まる時期となるが、市場は低価格品を求めており、高付加価値品の売行きが悪い。見通しは厳しい。従来、少容量の主力商品は価格が少し割高であったが、今は価格の安い少容量製品が売れている。
		化学工業（管理担当）	・エコカー補助金の期限切れや、原材料価格の上昇、円高による輸出環境の悪化といった悪い材料が多いほか、米国の失業率もなかなか下がらないなど、先行きの見通しは悪い。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関連では、7～9月は例年並みの推移となるが、10～12月はエコカー補助金の期限切れで注文の内示が減少している。
		広告代理店（営業担当）	・秋物衣料の立ち上がりに期待しているものの、残暑が長引けば苦戦することになる。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・周囲からは良い話が聞かれなため、先行きはやや悪くなる。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・売上は一時的な不況を脱し、巡航速度での推移となるものの、原料の綿糸価格が高騰が続いている。今後は仕入価格が上がってくる一方、販売価格への転嫁が難しいため、収益状況は苦しくなる。
悪くなる		繊維工業（団体職員）	・今後は年末を迎えて最需要期となるが、綿糸価格の高騰分を製品価格へ転嫁するのは簡単ではない。先行きは非常に不透明であり、同業者からは転廃業の声も聞かれる。
		繊維工業（総務担当）	・販売面の改善や経費削減も限度にきている。現状は通常の流通による販売が機能していないため、新たな販売方法を考えねばならない。
		繊維工業（総務担当）	・今後3か月は消費者の購買意欲が更に低下する。価格の下落と販売量の減少のダブルパンチにより、状況は更に厳しくなる。
		金属製品製造業（営業担当）	・円高や公共事業の削減、エコカー補助金の期限切れといった悪い話ばかりで、良くなる話が全く聞かれない。
		建設業（営業担当）	・大型の設備投資が抑えられており、生産機器やソフトウェアへの投資計画は耳にするものの、建築計画の情報は少ない。当地域の情報関連企業は業績回復が進んでいるものの、更に広い範囲での動きがなければ、建設業の回復にはまだまだ時間が掛かる。
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（支店長）	・下半期に向けてソフト関連の受注が増えるなど、受注増が更に進む。
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・一部の業界に限られるものの、回復傾向が徐々に進んでいるため、下半期に向けて受注は堅調な動きとなる。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金などの受給対象者数が減少傾向となりつつあるほか、当初は非正社員が中心であった新規求人の増加も、ここ2か月は正社員の求人が増えている。まだまだ厳しい業況の企業は多いものの、新たに正社員を募集をする事業所も出始めているため、先行きはやや良くなる。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・更に悪くなるかもしれないという危機感がある一方、良くなってほしいという期待感もある。先行きを楽観視するしかないが、景気は少しずつ回復に向かっている。
変わらない	人材派遣会社（経営者）	・派遣に対する企業の対応が落ち着きつつある。短期間であれば派遣社員でつなく動きが浸透してきたため、今後も現在の状況が続く。	
	人材派遣会社（経営者）	・製造業では緩やかな派遣求人の回復が進むものの、事務系の採用抑制傾向はしばらく続くため、全体的には厳しい状況となる。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大阪の地元企業の回復がみられないため、今後も悪い状況が続く。業種によっては回復の動きもみられるが、ほんの一部であり、報道されているような回復気運は全くない。	
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・第2四半期のスタートを切ったが、先行きに良い材料が見当たらない。経済の活性化する兆しが出てくればよいが、タクシー業界でも規制緩和から再び規制強化の動きとなっている。	

	新聞社 [求人広告] (管理担当)	・雇用情勢は相変わらず悪く、本格的な回復軌道にはない。当社でも忙しい部門と暇な部門があるなど、本格的に上向く感はない。
	職業安定所 (職員)	・中小企業緊急雇用安定助成金の支給が減らず、新規相談も数件あった。規模的には零細事業所の相談が多く、今後も当分の間は続くことになる。
	職業安定所 (職員)	・雇用調整助成金の支給件数があまり減っておらず、まだまだ回復しているとは言えない。ただし、休業日数そのものは全体的に減少している。
	職業安定所 (職員)	・雇用保険の資格喪失数は14か月連続で減少している。資格取得数も5月から増加に転じているなど、改善の動きが出始めている。産業別新規求人では、建設業が2か月連続で前年比3割増となったほか、運輸・郵便業も日本郵便の宅配統合による臨時求人もあり、増加に転じた。ただし、求人数の大きなサービス業、飲食業は4割減となっているため、今後も求人数の動きに大きな変化はない。
	職業安定所 (職員)	・大企業は受注量が大きく回復しているものの、中小企業はまだまだ厳しい状況が続いているため、大きな変化は起こらない。
	民間職業紹介機関 (職員)	・工事現場の日雇求人が増えているものの、お盆前の増加は例年の動きであり、一時的な伸びに終わる。
	民間職業紹介機関 (営業担当)	・雇用情勢の回復する新たな要因が見当たらない。
	民間職業紹介機関 (支社長)	・企業からの求人依頼の動きは底堅いものの、求人件数はほぼ一定で、増加する気配は乏しい。下半期以降の採用計画は不透明という企業もあり、楽観視できない状況である。
	学校 [大学] (就職担当)	・もう少し様子を見なければ、判断は難しい。
やや悪くなる	人材派遣会社 (役員)	・派遣需要については、景気回復の遅れや当局による指導の厳格化、労働者派遣法の改正動向が不透明なこともあり、企業が一斉に様子見を始めている。今後、これまで派遣社員として働いていた主婦層を中心に失業が増えることになる。
悪くなる	-	-